

[009] 九州大学低温センターだより表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1854993>

出版情報：九州大学低温センターだより．9，2015-03．九州大学低温センター
バージョン：
権利関係：

巻頭言

昨年は九州大学低温センターにとって大きな変化がありました。前号の低温センター便りでも木須先生が書かれていましたように、ヘリウム回収・精製・貯蔵システムの増強が補正予算で認められ、現在急ピッチで工事が進められています。これで今年の理学系の移転後も伊都でのヘリウム回収と貯蔵は余裕を持って行うことが可能となり、少なくとも当面は設備についての憂いはなくなりました。さらにはアベノミクスのおかげで理学系移転に先駆けて低温センターの増床分の工事が行われました。従来の伊都の低温センターの北側に新しい平屋の建物が建設されています。すでに箱崎の極低温実験室に置かれていた実験装置が移設され、一部は稼働を始めています。これらの装置のユーザーにとっては実験室だけが伊都に移転してしまいましたので、実験が不便になりました。

今年はさらに大きな変化が待ち受けています。理学研究院の伊都移転は平成 27 年 9 月～10 月に計画されています。これに伴って低温センターの職員も伊都に移転します。つまり来年度からは伊都地区低温センターに人員が集中し、箱崎地区センターは大幅に縮小することになります。しかし箱崎にはまだ農学研究院などが残っていますので、低温センターでは液体窒素の供給は続けることにしています。現在の計画では週に 2 日ほど職員が箱崎に来て液体窒素の供給を行う方向で検討していますが、伊都でも寒剤の供給と配送業務がありますので、明らかに人手が足りません。これについては現在大学にお願いしているところです。

一方ヘリウムの液化はコストがかかりすぎるため、27 年夏以降は箱崎のヘリウム液化機の運転は停止せざるを得ません。伊都から液体ヘリウムの配送は、ヘリウムガスを回収して箱崎から伊都に運ぶことができないため、現状では行うことができません。このため箱崎で液体ヘリウムを利用しているグループにはかなりのご負担をおかけすることになります。農学研究院が伊都に移転するのは平成 31 年度の予定ですが、それまではユーザーの皆様にもいろいろとご迷惑をおかけすることになります。どうぞご理解くださいますようお願いいたします。

なお、これらのことについてはすでにいろいろな機会にアナウンスしているところではありますが、もう少し周知徹底を図っていきたいと考えています。

低温センター長 和田 裕文